

シーガイア再生 ドーム活用が鍵

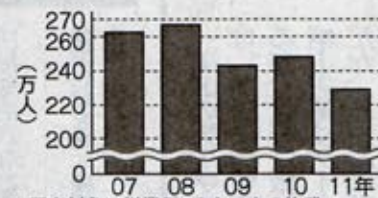
セガサミーホールディングス(HD)が運営会社を買収し、再生に乗り出した宮崎市の大型リゾート施設「フエニックス・シーガイア・リゾート」。今月初めに開かれた現地での記者会見で、セガサミーHDの里見治会長兼社長は、閉鎖中のメイン施設「オーシャンドーム」を再活用する方針を明らかにした。ドーム再生は、シーガイア再生の象徴となり得るが、地元関係者からは早くも「観光地としての宮崎の魅力が落ちていくのでは難しいのでは」との厳しい見方も出ている。【小原擁】

フォーカストレンドインタビュー 迫る★迫る

「すべての方に満足してもらえるものにする」。里見会長は、再活用にも自信を見せた。約10人のプロジェクトチームで、半年間かけて具体案を練る。思い描くのは、アジア、そして熊本、鹿児島など近隣県からの家族連れでにぎわう施設だ。観客1万人以上のコンサートができる多

目的施設や、同社が筆頭株主のサンリオのキャラクターやアンパンマンなどの自社コンテンツ(内容)を使ったショーの開催を検討。ただし、屋内プールの活用については「白紙」としている。ドームは93年、世界最大級の全天候型屋内プールとして開業。長さ300m、幅100

コンサート、キャラクターショー検討



※調査対象は従業員10人以上の施設(観光庁「宿泊旅行統計」より、11年は速報値)

宮崎県の観光情勢も下降傾向にあり、取り巻く環境は厳しい。観光の宿泊旅行統計は、09年にはシーガイアの運営会社「フエニックスリゾート」が宮崎県と宮崎市に対し、ドームの無償譲渡を打診。しかし、県と市などでつくる調査チームが、活用策を約8カ月間検討した結果、「採算が見込める策はない」と結論付けた。

宮崎空港への乗降客数は268万人(10年)で、10年前の00年(334万人)の約2割減。また、11年は新燃岳噴火などが追い打ちをかけた。前年比約7・7%減の229万人(速報値)と落ち込んだ。昨年全線開業した九州新幹線の沿線外にある宮崎は、新幹線の恩恵を受けているとはいえず、航空、電車、道路などの交通インフラの充実も、再活用には欠かせない。セガサミーHDは、将来的にリゾート内にカジノ設置も見据えている。

観光縮む宮崎 環境厳しく

宮崎県の観光情勢も下降傾向にあり、取り巻く環境は厳しい。観光の宿泊旅行統計は、09年にはシーガイアの運営会社「フエニックスリゾート」が宮崎県と宮崎市に対し、ドームの無償譲渡を打診。しかし、県と市などでつくる調査チームが、活用策を約8カ月間検討した結果、「採算が見込める策はない」と結論付けた。



オーシャンドーム(手前)の再活用の成否がフエニックス・シーガイア・リゾート再生の鍵を握る。宮崎市で本社へリから、金澤鏡撮影